

第3回鎌倉市観光基本計画推進委員会会議録

日時：令和元年（2019年）8月6日（火）15時30分～17時30分

会場：鎌倉市観光協会 会議室

参加者：海津委員長、仲田副委員長、大津委員、藤川委員、榊原委員、須藤委員、中杉委員

事務局：齋藤市民生活部長、廣川市民生活部次長、秋山観光課係長、柴田職員

前回会議録の確認

事務局 定刻となりましたので、ただいまから、第3回鎌倉市観光基本計画推進委員会を開会させていただきます。

今回鎌倉市観光協会から、新たに8月から専務理事に就任されました大津専務に委員としてご参加いただくこととなりましたので、簡単に自己紹介を頂きたいと思います。

委員 挨拶

事務局 事前に傍聴者の募集を行ったところ、2人の傍聴希望がありました。現状1名お越しですので、ここで入室していただくことにします。入室後委員長から傍聴者に対し注意事項のご説明をお願いします。

委員長 傍聴の方、大変お待たせしました。はじめに傍聴の方にお知らせいたします。会議中の私語やご発言等は慎むようご協力をお願いします。

また、会議中は、カメラ・ビデオなどでの撮影及び録音は禁止しますので、ご了承ください。

それでは会議を始めさせていただきます。お暑い中お集まりいただきありがとうございます。夏真っ只中で鎌倉の観光シーズンだと思いますけれども、次第に沿って進めさせていただきます。

次第の1 前回会議録の確認について、事務局からお願いします。

事務局 前回会議録につきましては、出席委員の皆様事前に確認いただいておりますので、本日特段の御意見がなければ、委員会終了後、ホームページ等で公開いたします。なお、前回会議につきましては、当日お配りした御意見票により、御意見を頂いておりますので、後ほど議題2の際に触れさせていただきたいと思います。

委員長 いまの会議録は資料3ということになります。議事録がべた打ちをしていたで、名前が消えている状態です。確認していただいて、特に異論がなければこのまま公開になるということでございます。

こちら、最後まで確認を頂くということでよろしいでしょうか。

事務局 はい、よろしくお願いいたします。

議題1 第3期鎌倉市観光基本計画の進捗状況について

委員長 では、続きまして議題のほうに入らせていただきます。
第3期鎌倉市観光基本計画の進捗状況についてということで、本来の推進委員会の業務の一つです。こちらご説明をお願いいたします。

事務局 (資料について説明)

事務局 一点補足させていただきます。
お配りしたA4横の個表の見方でございますが、一番上が目標の施策の分野の番号になっておりまして、その下に取組番号がございます。こちらが今説明させていただいた番号と一致しております。詳しい内容については、こちらをご覧いただければと思います。

委員長 こちらのシートを見ますと一番上のところに目標の施策分野が2つ入っておりますけれども、こちらはどのように見たらよいでしょうか。

事務局 こちらは、目標のIからIVのどこに当てはまるのか、どこの施策に該当するのかを記載しており、例えば取組項目1では目標のIからIVすべてに該当してくるという形で記載しています。

委員長 ただいまのご説明いただきました、この推進委員会としては一番見なければならぬ部分だと思いますが、御意見はいかがでしょうか。

委員 16ページの指標の推移ですが、観光消費額に対して市が投入している観光予算は公開できますか。811億円から679億円にかなり下がっている。このとき市が投入していた予算はいくらだったのか。延べの観光客数を見るとこれだけ落ちるほどの減少ではないように思います。

事務局 まず、前回会議でお配りした平成30年度版の観光事業の中で、観光の予算を書いております。ここを見ていただくとどの分野にいくら使ったか分かります。基本的に観光消費額は観光客数に連動して総額を計算しています。実際には一人当たり観光消費額を出し、延べ観光客数と立ち寄り地点数から実観光客数を出し、この実観光客数の減少に連動して観光消費額が減少したものと認識しています。

委員 観光客数が減ったのはどのように分析していますか。

事務局 平成28年から平成29年は86万人減少しておりますが、夏季の気候不順による観光客数の減少、10月の下旬週末を中心に大型台風の到来により減少したものと考えています。

委員 平成30年度の観光予算を見ると4億2千5百万円投入していて、前年度は2億6千2百万円となっていて大幅に増額している。それがすぐには結びつかないにしても、観光消費額が減って、天候不順により観光客数が減少しているが

	<p>予算が増額であったことについて整合性はどのように考えていますか。</p>
事務局	<p>観光課では施設整備を行っており、公衆トイレの整備を行っています。平成30年度の予算増加は公衆トイレに関するものであり、観光客数の減少とは関係ないものとなっています。</p>
委員	<p>16ページの鎌倉流フィルムコミッションの推進が空欄となっていますが、これは広告宣伝効果も高いと思っていますが、行政としては推進していないということでしょうか。もう一つ、多文化宗教支援事業は特にムスリムに対しての配慮だと思えますが、このあたりどのように対応したらいいのか、教えていただきたいと思えます。例えばハラール認証が難しいなら、豚肉を使ってないですよと表示するとか。何か協力できることがあればやりたいと思えます。</p>
事務局	<p>フィルムコミッションにつきましては、現状文化推進課が所管しており、旧華頂宮邸で場所貸しを始めていましたが、問題が発生しており、頓挫している状況で、今後鎌倉文学館で同じような取組が出来ないか検討中ですが、達成未達成は現状お答えしかねるということで、現在達成状況に記載がない状況です。</p> <p>多文化の関係は民間事業者からも相談を頂いており、小町通商店会からも取組があれば市から紹介してほしいとの要望もあります。ムスリムの対応として、ほんの少しのスペースでいいので、お祈りできる場所があればと聞いています。</p> <p>ハラールの料理については、1件対応店舗がありまして、商工会議所でも説明会を開催しましたが、厳格なムスリムと柔軟なムスリムの方で違いがあるが、そこまで難しく考えず、出来るところからやったほうがいいとの説明をしています。</p>
委員	<p>マレーシアの受入で一度取り組んだ経験があったが、十分な知識なしでの取り組みはせいぜい豚肉を使ってないとか、日本料理にはお酒が入っているとかなり、実効性が極めて弱くなります。本場の人に来てやってもらわないと中途半端な取り組みはお金の無駄になります。</p>
委員	<p>ハラールに関しての施設というのは、東京だとJR渋谷駅近くに礼拝所がある。これは都営なのか分からないが、場所の提供は市が予算措置して用意するのか、または協力してくれる場所を探すということですか。</p>
事務局	<p>このあと個別会議の進め方等を含めてお話をさせていただくが、未達成の事項としてこの項目も入ってくるので、そこで重点事項としてこの項目が入ってくるようであれば、改めて検討したいと考えます。</p>

議題 2 今後の取り組みのポイント

事務局	資料5と6を使ってご説明させていただきます。 その前に、当初予定していたもう1名の傍聴者がおいでになりましたので、ここで入室とさせていただきます。 (資料5と6に基づき説明)
委員長	大枠の話をしていただきましたが、ご質問ご意見はありますか。
委員	この個別会議は年に何回行うという話でしたでしょうか。
事務局	個別会議1と個別会議2をそれぞれ1回ずつの予定です。
委員	そうすると年1回の会議で説明して、承認してくださいということなのか、ワークをして、実施まで組むのか、年1回でなにをどうするのでしょうか。会議の内容はどのようにするのですか。
事務局	個別会議はそれぞれ1回ずつテーマに沿ってお話していただき、2月の推進委員会で承認いただきたいという形となります。
事務局	補足します。個別会議は今後早いうちに1回ずつ開催します。個別会議では委員のほか各団体の方をお呼びして、藤川委員のご提案のようにブレインストーミングのような形で、アイデアを出して頂いて、それを踏まえて事務局がアクションプランの案を作成しまして、皆様とやり取りをさせていただいて、関係団体へのアンケートなども行って、年明けに今後3年間のアクションプランとしてまとめるということで進めたいと考えています。
委員	ブレインストーミングをする前に、事務局からこんなプランはどうか、これについてブレインストーミングしましょう、そして各団体に戻ってこれでどうでしょうかと図って、それでまとめてもう1回ぐらいのステップが必要だと思いますが、どうでしょうか。
事務局	今日資料6でお示ししているのが、これまでの進捗状況で未達成や今後の課題となっているものを抽出したものです。これはあくまでも例示ですが、資料を各委員に目を通していただいた中で、こんなことをやったらいいんじゃないかと言っていたことについて、ブレインストーミングをしていただけたらいいと考えています。
委員長	それぞれの会議で何を議論してもらいたいのかについて説明がなされないと、考えていくことは出来ないと思いますので、いまは資料6で列挙している状態ですけれども、これをまとめると部会で、こういうことのアイディア出しをしてほしいという、事前にやり取りが必要ではないかというのが私の意見です。 藤川委員も何回かキャッチボールが必要ということですね。
委員	各団体への説明がどういった形で行われるのか。推進委員でも現状資料6で例示されている内容までなので、参加する団体はより内容が分からないのでは

ないでしょうか。

事務局 各団体の皆様には、前回の会議と今回の会議でご説明している内容をご説明して、今後の鎌倉市の観光を推進するための課題について、進め方の方法や目標点などのご意見を出していただきたいと考えています。

委員 前回は確認している事項だと思いますが、我々はどういう立場でそこに参加して、どういう立場で意見を言うのか。推進委員は少し先行している状態ですが、リード役をするのか。そのあたりのところを、年数回の会議でこれだけたくさんのご意見を出すのは無理なので、このあたりのプライオリティをどのように設定するかをこの会議で位置づけるという認識でいた。我々はリード役を務めるのか、事務局のフォロワーなのか、そこをもう一度整理していただきたい。

事務局 リード役をお願いするとなれば、推進委員の皆様には事前のインプットをもっと行わなければなりません。ですので、皆様お忙しい中でそこまでお願いすることはできないと思いますので、基本的には事務局のフォロワーとしてお願いしたい。各団体の方の意見を引き出していきたいと考えています。

委員長 そうすると、我々は意見を出す側ということでしょうか。

事務局 はい。また、プライオリティの話ですが、個別会議で優先的に議論すべき順序を予め決めておく必要があるということであれば、個別会議ごとに事前に絞り込む作業があってもよいかと思います。

委員長 個別会議は議長を設定して、会議のような形なのか、それともフラットな形で話し合いを行うのですか。

事務局 後者の形で、出来るだけ多くの意見を頂きたいと考えています。

委員 私の意見としては、会議は会議でしっかり行って、その中でワークの形を設けて30分やる形がいいかと思っています。そうでないと1年に数回の会議で結果を出すのは難しいと思います。

委員長 会の持ち方については、もう一度持ち帰っていただいてということでしょうか。

事務局 個別会議の開催までに、個別会議のグループ分けとテーマについて今日ご了承いただけたら、個別会議ごとにどういう風に限られた会議の中で、どのようにするのか、事務局の中で詰めて、皆様とやり取りをさせていただきたいと思っています。

委員長 前回の会議の際に、委員の分けはご提示いただいて、承認は頂いていると記憶していますが、団体については検討していなかったもので、その部分についてということ。

委員 藤川委員のおっしゃる様に、これまでの委員会では同じことを漠然と議論している。我々の意見を求めるとしたら、事務局の持っているプランの取組内容

を前に出して頂いて、それをどうするかという議論をしていただかないと、雲をつかむような話で終わってしまう。今後議論をすることがあれば、事務局の考えているこういう項目についてこういう取組をしようと考えているがどうだろうか、というような形にしていいただければと思います。

次に、意見を求めるという話についてですが、取り組み状況を見て驚きましたが、来た人をどのように迎えるか、鎌倉の観光の位置づけはどうかという内容は非常に多いが、どうやって具体的に海外、国内、修学旅行を引っ張ってくるかというようなDMOにおけるマーケティングに関する項目が67ページの1つしかない。旅行者を呼んでくるということに対して、予算も活動も非常に限定的。これが観光を促進していく市の組織としていいのだろうかと驚きました。消費額を増やす取組などはほとんどこの資料には出ていません。

3つ目ですが、資料6の枠組みでよいかという話ですが、私の意見としてはいいとは思いません。いま旅行会社にはマーケティング能力はありません。どこから旅行者が来るかというデジタルマーケティングから来ています。その人たちを検討の組織に入れ込まないとだめだと思います。今は各個人が組織に入らないでやっている。この枠組みでやるのは10年前の枠組みだと思います。

事務局 鎌倉市の観光の基本スタンスが、新たな観光客の誘致には御指摘の通りほとんど行っていない状況です。前回会議でも少し説明させていただきました、外国人に対するマーケティングについては、事業者から提案を頂いておりますが、現状ではほとんど取組がない状況です。

取り組み例を含めた具体的な部分については、今後提案させていただいて具体的な部分について検討していただきたいと思います。

デジタルマーケティングを担っている方については、具体的にこういった方がいいなどご助言いただければと思います。

委員 デジタルマーケティングをやっている人達はまだ組織だっやっていないので、個人的に入っていただくしかない。OTAと呼ばれるネットだけで販売しているところが大きくなっているの、そういったところの人を呼んでくるのも一つの方法だと思います。

委員 デジタルマーケティングと言うのは、ネットで宿を予約するようなものでしょうか。

委員 そういうものも含めますが、鎌倉に行きたいといったときに、例えば今日の鎌倉とか検索したときに、今日のイベントとかいろんな情報も提供されます。これをやりたいて検索するとその業者がたくさん出てきます。鶴岡八幡宮ってなんだった検索すると、多角的な八幡宮の情報が出てきます。いま旅行会社のパンフレットを見ても、鶴岡八幡宮のモチベーションが湧くような情報は出てきません。みんなが知っている前提で旅程と金額しか出てこない。どうやっ

て市場を作っていくかって言うことには慣れていない。そういうことを専門的にやる人は旅行会社の東京の本店にいます。

委員　　いま旅行業者は苦戦しています。今の旅行者は個々に調べて旅行に行ってしまう。インフルエンサーのような方をキャッチして、鎌倉としてそういった方と信頼関係を築いていく必要があります。形式を整えて1年間の仕事が終わったとするような発想を捨てないといけません。過去の発想を整理しないといけないと思います。

委員長　　OTA をどういう風にマネージするかもさることながら、何を発信していくのかという、特に個別会議1のほうが重要なテーマになろうかと思えます。手法が代理店を通してだとチャンネルがもうないと。2010年にはネットと紙媒体が逆転しているので、そのあたりの実情を踏まえる必要があると。
海外の方は日本で見るものを探すときはどうでしょうか。

委員　　JNTO が各地方自治体の情報を発信しますという形でやっています。ただ、これだと例えば鎌倉だと1ページ、半ページ、1行になってくる。マーケティングは競争ですから、藤沢じゃなくて鎌倉にというようなデスティネーション間の競争を取り組んだプロモーションは JNTO ではできるのかできないのか議論になっている。極端な表現になるが、JNTO はいま鎌倉がやっているような受入環境の整備を地方がやって、そこから先のマーケティングは JNTO がやるといっている。そこには競争力が削げ落ちている。だから、JNTO のファンクションを使いながら、自分たちで競争力を持つ機能が必要になってきます。

付け加えて、前回は意見として出しましたが、鎌倉の良さは鎌倉の人じゃなくて、外の人の方が見える。外の人が見て鎌倉のここがいいということを商品化していくべきです。

委員長　　今の話は検討メンバーにもかかる話ですね。いまは鎌倉の中の主体で構成されているが、それだけでは十分ではないということですね。

委員　　私は個別会議1に入っていて、モニターツアーなどを作っていくのかなと思っていましたが、旅行会社を入れる必要はなく、観光協会で売ってあげればいいでしょうか。

委員　　旅行会社の機能は大きく分けて3つくらいあります。一つが観光地の宣伝をしましょうというものです。いまはお客がその情報を詳細に持てるようになったので、その部分は期待できなくなりました。

2つ目が、主催旅行・パッケージを作る機能です。このパッケージの機能は交通機関・宿泊・観光要素を組み合わせるシステムになっているが、いまは交通機関を直接やると安くできるし、消費者が旅慣れてきたため、不要になってきた。

3つ目が料金決済の機能です。昔は旅行会社に頼むとそこから先の支払いは

旅行会社がやってくれた。いまはみんながカードを持っていて支払いが出来るようになりました。

この3つの大きな機能は海外ではまだ旅行会社に依存しているが、国内は依存度が低くなりました。依存できるところがあるとすると経費を出して、鎌倉の旅行商品のパンフレットを作って配って欲しくないかということも考えられるが、近年旅行会社の路面店は少なくなっています。そういう意味でも旅行会社とのコラボレーションは団体旅行を誘致する際に、いろんな団体の旅行を束ねているので、そういうオーガナイザーやまとめ役の人達に対して鎌倉に来てくださいといったアプローチの役割を持っていただくのが良いと思います。

委員 観光協会でも旅行業を持っていますので、人間的なことで旅行業者の方にお願ひしてやってもらうこともあります。そういうことやったほうがいいですよね。

委員 私自身もモニターツアーのアドバイザーとして何度かやっていますし、すでに出来るものがいくつもあると思います。既存のものを組み合わせるだけで、特別なものも十分出来ると思うので、挑戦する価値はあると思います。

委員 旅行業者を排斥しようと言う話ではなく、OTAが入っていないのがどうかという指摘をさせていただきました。昨今は皆さんも旅行に行こうというときに旅行業者を利用する機会は少なくなっていると思います。どんなときに使うかと言うと、30人で行こうと言う時に30人の団体手配は面倒だとか、不慣れた海外旅行のときなどには使うことがあるかと思いますが、個人の旅行ではインターネット経由でやっているケースが多いのではないのでしょうか。特に鎌倉はマーケットの半分以上が関東で、しかも個人のお客様が主体ですから、旅行業者は経由しないケースがほとんどだと思います。

委員長 鎌倉は教育旅行が多いので、そういった場合には旅行業者をというところはありませんね。

いま個別会議1についてコメントを頂きましたけれども、2のほうはDMOがメインになるとは思いますが、いかがでしょうか。

委員 私は組織体の名称だけでは不十分だと思います。そこの組織のスペシャリストに集まっていたらいいのであれば賛成です。鎌倉は特別で、インフルエンサーが多いので、そういった人達を入れていくことが大切だと思う。

これからテレワークとか進めていこうとしているので、インフルエンサーやそういった人達とジョインして素晴らしい鎌倉をアップしていただければと。

委員 国は地方創生に対して予算を持っている。外国のインフルエンサーをつれてくるというのは、DMOが無いから、あるいは観光協会が他ほど積極的に動いていないから誘致していません。今も神奈川県もJNTOもたくさんそういう人を呼

	んでいます。そういった部分も研究進めていただいたらよいと思います。
委員	それは観光協会ももらえるのでしょうか。
委員	<p>観光協会ももらえると思います。大抵はDMOがやっています。普通の観光協会はマーケティングという、いくらのお金を投入したら、地域としていくら帰ってくるという地域経営の感覚を持っていません。DMOは入れたお金の何倍かは地域として取り返さなきゃなりません。今までの観光協会は宣伝だけして終わっていた。パンフレット作りました、印刷物渡しました、で終わっていました。DMOだとこれだけの仕事をして、これだけの人を集めて、これだけのお金を地方に落としましたというプランを作って提案するので、お金が落ちてくると。</p> <p>前からこの議論をしているが、観光協会がDMOに変わっていったらいいのではないか。ただ、それは経営者と同じですから公務員の感覚だと難しいので、立ち上げが難しいです。地方だとその地域のどこそこの団体の偉い人が名前を連ねる組織になり易く、なかなか生産的な儲ける組織になりません。</p>
委員長	<p>藤川委員からは、団体の誰を呼ぶのか明確にしてほしい、それからアクションプランの中にはインフルエンサーを招くとかの戦略が必要ということですね。榊原委員からはDMOということでしたが、事前の事務局のお話で個別会議2の中心的な議論のテーマとして、課題の解決のためにまずはDMOを作るといことが出ていましたので、そういった部分を具体的にどうしたらいいかというのを出せると重要なアクションプランになると思います。</p> <p>こういったお話を踏まえて事務局からいかがでしょうか。</p>
事務局	<p>今後の議題3でお話をさせていただく予定でしたが、団体の人について、団体から推薦をしていただいて、決まり次第ご説明をしてという風に考えておりました。それぞれの団体にこういう方が適任だというようにお願いしても、手弁当で参加していただくことから、この方というのがすぐに分かるかという難しきかなと考えております。こういう方に出ただけであればというのは要望してまいります、すべてが叶うかどうかは難しいと考えています。</p> <p>個別会議の日程は8月下旬から9月中旬ぐらいまでと考えていましたので、このあたりを含めて検討させていただければと思います。</p>
事務局	いま議題3までご説明いただきましたが、いかがでしょうか。
委員	<p>推進委員は前回会議で合意いただいたと思いますが、次の会議は推進委員の日程前提で進めてはどうでしょうか。参加者が多くなると日程調整が難しくなると思います。次の1回で終わらせるのであれば参加者は少ないほうがいいかなと。</p>
委員長	今日いらっしゃっていない委員もいらっしゃいますので、今日確定は難しいかなと思います。

	<p>まだ、議題のほう落ち着いていないですが、参加団体ではその他にご意見はありますでしょうか。バス事業者などは入っていないですが。</p>
委員	<p>他に団体じゃなくて個人でがんばっている人とかいないでしょうか。</p> <p>熱海なんかは観光課の人が一人すごくがんばって、全国規模になりましたよね。そういう人がいれば団体にこだわらなくても。</p>
委員	<p>1回の会議でやろうとした場合には、1回で合意いただけないと出来ない。いろんな団体でやるとみんなにとっていいものってなかなか出来ない。</p> <p>特別感を提供するためには、特筆するようなところをいくつか集めて、こんな感じにしてみようという具体的なプランを作って、参加者を集める形がいいと思います。仏教会でも観光に対して熱い人もいれば、観光はもういいという人もいますので、そういった人すべての合意を得ないと前に進めないとなってしまうと、なかなか前に進めない。やる気のあるところを集めて進めていったほうがよい。そういった点で、個別会議はいい考えだと思う。委員だけでもいいと思います。</p>
委員	<p>私も、団体からの推薦と言う話をしましたけれども、お二人のご意見に賛成です。</p>
委員	<p>もし、ここでうまくいかなくても副産物としてやってみようというものは得られると思います。</p>
委員長	<p>個々の事業者もありえると思いますが、資源を持っているところも大事な役割を果たすと思いますが、文化面に入っている人がいない感じがします。鎌倉彫であったり、文化財のことであったりという人が重要な役割を果たしていくのかなど。</p>
委員	<p>商工会議所が入るとそういったところも入ってくるかなど。それも一本釣りになるかと思いますが。</p>
委員	<p>私も出来ればいまの推進委員だけで一度お話が出来たほうが、方向性がわかるのと、優先順位も取り組みたい項目によって話をしたい団体も分かってくると思うので、早めにポイントを決める方向に進めたいと思います。</p> <p>どこかで時間が取ればそういう場をとってもいいのではないかと感じます。</p>
委員長	<p>事務局からはどうでしょう。</p>
事務局	<p>事務局としては、皆様にお忙しい中来て頂いているのと、皆様にお支払いする報酬の予算的な問題もあり、お支払いしきれなくなってしまうこともありまして。</p>
委員	<p>それは手弁当でいいのでは。</p>
事務局	<p>皆様がそれでいいということで仰っていただけるのであれば、個別に会の打ち合わせの場を設けるのはいいのではないかと思います。</p>

委員長	とてもいいご提案をいただいたと思いますけれども。
事務局	また、個別に打ち合わせをしていただく時間を設けさせていただきたいと思 います。
委員	繰り返しになりますが、事務局の考え方をこの検討会に落としていただきた い。こういうことを推進するために、こういった考えを持っているがどうかと いう状況を作っていただき初めての的を絞った議論になります。1回しかやらな いのであれば、ぜひそうしていただきたい。
事務局	我々としても、今回の会議で枠組みの話が出来ましたら、個別のお話を事前 にインプットとして具体的な情報をお知らせした上で会議を行わなければいけ ないと認識しています。
委員長	これはミッションシート（指示書、仕様書、指令書）の様なものとして提示 されると望ましいということですね。状況説明はしていただく必要はあると思 いますが、それだけでは議論は出来ないということだと思います。
委員	関連して、青年会議所とか若い人が入っていないとか、カヤックが400人 も社員がいろいろなことを考えているなど、いろいろな人がいると思いま す。
委員長	カマコンなどもですね。宿泊のゲストハウスなども考えられると思います。 際限がないですが。
事務局	個別会議の人選につきましては、打ち合わせの時間にでもどういう人と一緒 に話をするべきか、ということも決めていただければと思います。
委員	Todayの渡邊さんとかもいいですね。
事務局	皆さんのなかでもこういう人がいいとかご意見があると思いますので、そう いった方もご提示いただければ。
委員長	いろんな地方のDMOを見てると地銀とか信用金庫とかが入っていて、鎌倉の 場合は湘南信金などがありますが、そういったところに入っていただくとかアイ デアとか予算とかも出てくるかもしれませんね。 その辺も含めて部会の前に事前打ち合わせを行う想定ですね。
委員	前回会議でオーバーツーリズムの話があって、市民にとって楽しくない観光 になっているというテーマが入っていないですが、どう考えましょうか。
事務局	そこのところは個別会議2の、市民の満足度向上と地域の活性化というテー マとしていて、追加と記載しているところで、住民の満足度向上のためにも、 観光によるプラス面が住民に直接結びつくような取組。こういったところがオ ーバーツーリズムを含めた観光に対する満足度を高める取組としてやっていき たいと考えています。
委員	これは検討の前提として、来訪者のマナーを上げる、住民の人達に観光は大 事な要素だから理解してくださいと理解を求める、積極的に数のコントロール

をする、分散でどのくらいのビジョンで分散していくかとか、解決の方向性への根本的な話し合いはここでしか出来ないと思います。我々は来るだけ来て貰うスタンスを取るのか、訪問してもらう数を考えようという検討になるのか、そんな議論をしてみたいと思います。

事務局 そのあたりのお話は基本的には、この基本計画を作ったときに議論をしていただいた部分です。そのときに延べ観光客数は現状維持で行きましょうという目標を立てている。それを抑えようというわけではありませんが、目標値としてはこれ以上増やしていくという考え方はないが、時期的、時間的、場所的に平準化をしていくのが理想だと考えているところです。

委員長 その点は個別会議2でしっかり議論していくということで。

委員 個別会議は団体とか個人の方でも推薦すればという形でしょうか。

事務局 お一人がお一人推薦いただくようなイメージで進めていただけると。

事務局 事前打ち合わせでは、メンバーだけを議論するのではなくて、事務局として議論していただきたい部分をお示しします。それをもって議論していただければと思います。

以上